

きゅうぶく やまじょうほんまるおもてご てん げんかん

# 旧福山城本丸表御殿 玄関

■指定年月日／昭和38年7月26日  
 ■所在地／松前町字松城  
 ■管理者／松前町



昭和57年まで小学校正面玄関として利用されていた頃の表御殿玄関

6年の歳月を費やし、<sup>けいちょう</sup>慶長11年(1606)8月に完成した城は、当時これを「福山館」と称していた。その後、<sup>かんえい</sup>寛永14年(1637)3月、城中から出火し硝薬に飛火し、建物の多くを焼失したが、同16年6月これを修築した。<sup>かえい</sup>嘉永2年(1849)福山城新城構築の際、旧本丸表御殿の建物は、そのまま新城に利用された。

明治8年までに、開拓使の手によって福山城の建物は取りこわされ、表御殿と天守、本丸御門を残すのみとなった。表御殿は、同年開校された松城小学校校舎として充用されてきたが、明治33年新校舎建築の際に撤去された。しかし、この表御殿玄関だけは、小学校正面玄関として利用され、昭和57年までの間、原形を保っていた。現在は、そのまま<sup>ひきや</sup>曳屋され、管理保存されている。

この玄関は、京都伏見城の一部を移したものと伝えられているが、唐破風の曲線や<sup>げぎょ</sup>懸魚は、桃山時代の流麗な作風をもち、また外部の松竹梅に鶴亀、内部の五・三の桐と<sup>おもだか</sup>相對する<sup>かえるまた</sup>沢潟の紋章をはめこんだ<sup>かえるまた</sup>礎又は、桃山時代の特徴をよく示したものである。



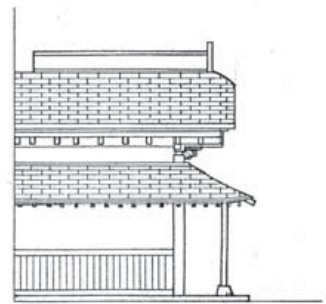
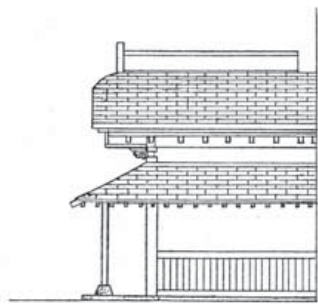
現在の表御殿玄関



玄関外（部分拡大図）



玄関内部（部分拡大図）



御殿玄関実測図